

和地ひとみレポート No.220

今年度から本格化した新教育委員会制度による「H28 年度第 2 回総合教育会議」 市長の教育に対する考え方は・・・

教育委員会



■新教育委員会制度

…以前のこのレポートでも取り上げたように、東大和市でも“新教育委員会制度”を今年度より導入しています。新制度の主なポイントは以下の通りです。

- 教育委員長(非常勤:教育委員会の代表者)と教育長(常勤:具体的な事務執行の責任者、事務局の指揮監督)を一本化した「新教育長」を置く
- 新教育長は、首長が直接任免を行う
- 新教育長が教育委員会を代表する
- 教育長の任期は 3 年とする
- 首長が主宰する「総合教育会議」が主催。教育施策の大綱も「総合会議」で策定する

…この制度が法制化されるまでは、首長＝市長が教育に関わることに對し「教育行政の中立性」等について様々議論がされたようです。しかし、最終的には教育の政治的な中立性は引き続き担保しつつ、民意を反映した首長の責任・役割が明確になると共に、諸課題に對して迅速な対応、調整を図ることが可能な体制を整えるために「新教育委員会制度」はスタートしました。…この新制度のきっかけとなったといわれているのが、大津市の中学生いじめ自殺事件(2011年)などをめぐる教育委員会の対応です。今までは、いじめ問題等が生じた場合、首長は関与することが出来ず、教育長も教育委員会を主宰することが出来ず、非常勤の教育委員長が教育委員会を招集し、市長(＝民意が反映されて選ばれた者)の関与が無いまま、教育長を中心に対応が図られていました。しかし、この新教育委員会制度では常勤の教育長が速やかに教育委員会を招集し対応を図ると共に、市長の判断により総合教育会議を設置して対応を検討するといった迅速な対応が図れることになりました。

■第 2 回総合教育会議

…上記のとおり、新制度では市長が主宰する「総合教育会議」が持たれることになりました。東大和市においては今年度 2 回の「総合教育会議」が開催され、その第 2 回は 11 月 24 日に執り行われました。「総合教育会議」は公開されており傍聴も可能です。第 2 回の協議事項は『東大和市教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況の点検及び評価について』でしたので、私も傍聴してきました。(当日の傍聴人は私以外、市議会議員 1 名の計 2 名のみ)

…東大和市は、毎年 3 名の学識経験者の講評を加えた形で、実際の教育行政がその目的に沿って具体的な施策がとられているかを点検した結果報告を作成、公表しています。今回の『東大和市教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況の点検及び評価について』は、学識経験者の講評前に平成 27 年度の運営状況を対象に教育委員が主要な施策などを踏まえた振り返り等の評価を行う会議でした。

■4つのテーマ

…会議冒頭の市長からの話では「学校教育においては、市民の声としては”良いもの”が多くなってきた。学力向上については少しずつ良くなってきているのではないかと思う。また来年度からは新しい学校給食センターが稼働するので、食育にもさらに力を入れていただきたい。」とあり、その後は「学力向上」「家庭、地域などの関連機関との連携について」「子どもの行事参加の推進について」「オリンピック・パラリンピック教育について」4つのテーマについて、各教育委員が評価、意見を出し合いました。

…最初のテーマ「学力向上」について出た意見は、「少しずつ良くなってきているが、市全体となるとまだ課題がある」「都の作文コンクールの優秀作 5 名のうち東大和三中の生徒 2 名が受賞したことや、標語のコンクールで十小の児童が優勝するということがあった」という評価する意見が多く出た一方で「学力向上については小学校より中学校を上げるのが難しい」という課題を指摘する意見や「H33 年度の学習指導要領の改訂を前に H29 年度から移行が始まる。そんな中で、国語が重要。特に小学校低学年の語彙の数がその後の成績に影響が出ると考えている。今後は、東大和市もそういう部分に力を入れていくべきだ」という意見も出ました。また教育長からは「学校長に外を見る機会を多く与えるために、他自治体の先進事例の視察を実施したり、英語教育についてのシンポジウムに参加させたりもしている」という報告がありました。

…また、「家庭、地域などの関連機関との連携について」「子どもの行事参加の推進について」出た意見は、様々な行事の例を挙げながら、連携もとれ、行事にも参加できているといった評価でした。そのような意見を受け、教育長からは「外部の人との関わり、外部の人が学校に入ってくるという外部との連携により、学校の先生方の社会性の向上も図れるのでよい」というコメントも出されました。

…「オリンピック・パラリンピック教育について」は、駅伝大会には都の補助金を利用し、元オリンピック選手を招待したことや、ロードレース大会で走り方教室を開催したことなどが挙げられる等、委員からは基本的に昨年度の取り組みを評価する意見が出されました。教育長は自身が東京都の『東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議』のメンバーということもあり「東大和市は地理的に選手のキャンプ地になることや、大勢の海外の方が立ち寄るということは難しい中、効果を出すには工夫が必要と考える。例えば、オリンピック・パラリンピック関係のイベントを学校に伝えても、参加に手を挙げる学校は少ない状況だ。校長には、オリンピック・パラリンピックはまたとない機会だということ、今まで以上に伝えていく。」とオリンピック・パラリンピックという貴重な機会を教育に積極的に活用してほしい旨のコメントをされました。(裏面につづく)

■民意を反映し、市政をリードする市長として

…教育行政は行政の担っている様々なことの中からでも重要なもののひとつです。選挙で市民の代表に選ばれた市長が教育行政への関与を強めるのは「民意を反映する」という意味もあります。今回の新制度では政治家が教育に関わることの危険性も指摘されていますが、市民から選ばれた市長が教育長や教育委員等の方と議論を積み重ね、地域に合った（民意に合った）特色のある教育を展開できれば今まで以上に良い方向に進む可能性もあります。また、教育行政に対する市長の責任が明確になったとともに、今回の新制度により教育行政の行方は市長の力量にかかってきたとも言われています。

…今回の「総合教育会議」では、基本的に各教育委員などの意見に市長が耳を傾け、それに対するコメントを述べるという形でした。市長からは「前回は社会教育に関して、だいぶ自分の意見を言い過ぎた」「私は学校では基本的に”読み書きそろばん”を教えればよいと思っているが、そういうわけにもいかない時代になってきているようだ」といったことも述べられました。以前の会議では「教育の専門家ではないから・・・」という謙遜とも遠慮ともいえるような市長の発言もありました。

…前述の教育長の発言にもあったように「先生方の社会性の向上をはかる」というのと同様に、学校教育に民意を反映させるということには市長の発言は重要だと思います。確かに市長は「教育の専門家」ではありませんが「東大和市の教育をこうしたいのだが、皆さんの意見は？」や「市民からこのような意見が来ているが、状況はどうなっているのか？」など、聞き役ではない、積極的な”投げかけ役”にもなってもらいたいと今回の総合教育会議を傍聴していて感じました。

■市長の教育行政に対する考えは

…東大和市の教育については、少しずつ良くなっているということを感じることも多くなっていますが、学校教育、社会教育ともに「一目置かれる教育」「教育が自慢の東大和」というところまでは至っていません。…東大和市の場合、教育委員会と市長部局との連携は以前から取れていると市長は述べていますが、新制度では市長が教育行政に現実的に関りを持つこととなります。教育行政に積極的な首長（＝市長）は、この制度を積極的に活用するはずですが、今回の新制度導入では、先に述べたように教育行政の権限と責任が集中する教育長を首長が任命することにより、首長を選出する有権者にとっては、選挙を通じて教育に間接的に携わることにもなり、これまで以上に教育行政に対し我々一人一人が意識して向き合う必要があるともいわれています。

…昨年の選挙の際「日本一子育てしやすいまち」を目指すとしていた尾崎市長の教育行政に関する考え方は、総合教育会議での発言で読み取れる部分もあります。総合教育会議は平日の日中に開催されるので、傍聴に行くことが困難な市民も多くいるとおもいますが、議事録は市のホームページで公開されています。

…お子様のいる市民にとっては、「子育て」「教育」の充実が「住みたいまち」「住み続けたいまち」の重要なポイントです。福祉等その他の様々な市民サービスも、現役世代の市民の増加によって充実していきますし、町の活気、活性化、そして市への愛着を市民に持ってもらうという意味でも、学校教育、社会教育は重要です。新制度を大いに活用して、東大和市の教育行政をますます充実、発展させていくべきです。



日経デュアルで「共働き 子育てしやすい街総合ランキング」で東大和市は4位！！

（1位 新宿区72点 2位 福生市69点 3位 港区69点）
この結果を市のPRにどんどん活用して

…日経新聞傘下の日経デュアル社が11月24日付で発表した「共働き 子育てしやすい街2016」総合ランキングを発表しました。昨年、東大和市は62点で総合6位でしたが、今年は5点アップの67点で4位にランキングされました。「日本一子育てしやすいまち」を目標に様々な施策を実現してきた東大和市は、都内でもトップクラスという外部からの評価を得ることができたということです。しかし、以前のこのレポートでも書いたように、多摩26市の中での東大和市の知名度は25位。知名度アップを課題としている市は、ぜひ、この結果を活用して、東大和市をPRして欲しいものです。外部からの評価が高いことは、市民の満足度にもつながります。良い材料はたくさんあるのですから市は「広報下手」をそろそろ克服すべきです。

【今回の調査について】

調査対象:

首都圏(東京・神奈川・埼玉・千葉)、中京圏(愛知・岐阜・三重)、関西圏(大阪・兵庫・京都)の主要市区と全国の政令指定都市、県庁所在地の162自治体(実施期間:2016年10月11日・回答数147自治体)

評価のポイント:①認可園に入りたい人が入れているか ②認可園の定員増に力を入れているか ③認可外保育園などの受け皿がどのくらい用意されているか ④ファミリーサポートセンターの充実度 ⑤病児保育に預けやすいか ⑥認可園の保育料が高いか安いか ⑦都認証保育所など認可外園に通う家庭への助成があるか ⑧未就学児がいる世帯へのサービス・現物支給があるか ⑨学童保育が充実しているか ⑩保育士確保へ自治体独自の取り組みがあるか ⑪母親の再就職を後押しする制度があるか ⑫未就学児の人数

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思えます。」

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となり、月刊誌『日経WOMAN』でのベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP: <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102